

# 目の健康

## 白内障の手術時期 眩しさやかすみでも検討

白内障は、目の水晶体が濁って見づらくなる病気です。主な原因

は加齢ですが、体の病気が（アトピー性皮膚炎や先天性のもの）や内服薬の影響、外傷などでも起こります。我慢したり、目薬で治ることはなく、手術で濁った水晶体を取り除き、人工のレンズを入れることで改善します。

手術時期は視力だけで決まるわけではありません。視力低下のほか、眩しさやかすみなどによる煩わしさを感じたら検討しましょう。

昔はほぼ見えなくなつてから、大きな傷口を開けて水晶体を丸ごと取り出す手術が主流でしたが、近年は小さな創口から超音波で水晶体を砕いて吸い取る術式が主流です。回復が早く、乱視や度数のずれが以前より生じにくいなどメリットが多くなっています。ただ、進行すると超音波では歯が立たず、創口を広げる大掛かりな手術

術になってしまつてもあります。

ご年配の方の中には、白内障手術は見えなくなつてから受けるものとお考えの方がおられます。手術により見やすくなることで転倒骨折を防いだり、認知症に効果があるという報告もあり、不自由を感じたら早めの手術をおすすめします。

免許更新の視力検査で指摘されて来院される方がおられますが、受診後すぐに手術できるわけではありません。更新の半年から1年前には眼科を受診しましょう。

### 大上 智弘 先生 プロフィール

平成14年筑波大学卒業、同附属病院眼科、虎の門病院眼科・茨城西南医療センター病院眼科科長、宮久保眼科副院長を経て令和3年4月院長就任 ■専門分野／白内障・硝子体・眼瞼手術、日本眼科学会認定専門医、網膜硝子体学会、日本眼科手術学会員他

